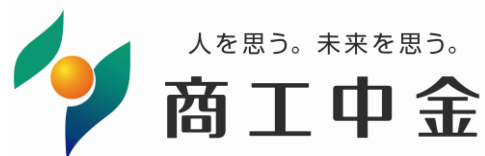


2022年9月22日
産業調査部

商工中金景況調査

2022年8月調査結果(定例分)



1. 目的・調査事項	<ul style="list-style-type: none">●目的 中小企業の、景況感をはじめとする実態のタイムリーな把握●調査事項<ul style="list-style-type: none">(1) 景況感 今月及び先行き(2) 業況判断（売上、販売価格、仕入価格、雇用状況、生産・営業用設備、資金繰り）今月及び先行き(3) トピックス（中小企業の人材育成の状況について<仮>） ※トピックス部分は別途、10月上～中旬公表予定
2. 回答期間・調査頻度	<ul style="list-style-type: none">●回答期間 2022年8月23日～9月6日（本件が第10回調査）●調査頻度 四半期毎（当面）
3. 対象企業	商工中金の取引先中小・中堅企業
4. 企業数	有効回答数 2,540社 （アンケート依頼数 4,310社、回答率 58.9%）
5. 調査方法	インターネットによる直接回答
■ ご照会先	商工中金 産業調査部 高澤（たかさわ） TEL：080-7005-3663

調査回答企業の属性（業種別）

		回答企業数	構成比(%)			回答企業数	構成比(%)
製造業		1,145	45.1	非製造業		1,395	54.9
	食料品	134	5.3		建設業	73	2.9
	化学	91	3.6		卸売業	400	15.7
	鉄・非鉄	81	3.2		小売業	223	8.8
	印刷業	54	2.1		運輸業	399	15.7
	金属製品	188	7.4		飲食・宿泊	113	4.4
	はん用、生産用、業務用機械	163	6.4		情報通信業	43	1.7
	電気機器	82	3.2		その他非製造業	144	5.7
	輸送用機器	129	5.1				
	その他製造業	223	8.8				
全産業						2,540	100

(注)各項目の構成比の合計は、四捨五入の関係で100%とならない場合がある（以降頁同様）

調査回答企業の属性（地域別）

地域		回答企業数	構成比(%)	地域	回答企業数	構成比(%)
	北海道	60	2.4	北陸	95	3.7
	東北	192	7.6	近畿	419	16.5
	関東	757	29.8	中国	205	8.1
	甲信越	161	6.3	四国	96	3.8
	東海	280	11.0	九州・沖縄	275	10.8
全産業					2,540	100

(注)各項目の構成比の合計は、四捨五入の関係で100%とならない場合がある

地域区分：東北（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島）、関東（茨城、栃木、群馬、東京、埼玉、千葉、神奈川）、甲信越（山梨、長野、新潟）、東海（静岡、愛知、三重、岐阜）、北陸（富山、石川、福井）、近畿（大阪、滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山）、中国（鳥取、島根、岡山、広島、山口）、四国（香川、徳島、愛媛、高知）、九州・沖縄（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄）

1. 景況感

～8月の景況感は、前回並みの小幅「悪化」超

<2022年8月の景況感>

8月の景況感は、前回並みの小幅「悪化」超

今月の景況判断指数（全産業）は47.1

（前回比±0.0ポイント）

先行きの景況判断指数は49.5

（今月比+2.4ポイント）

□ 8月・「好転」14.6%、「不変」65.1%
「悪化」20.3%。

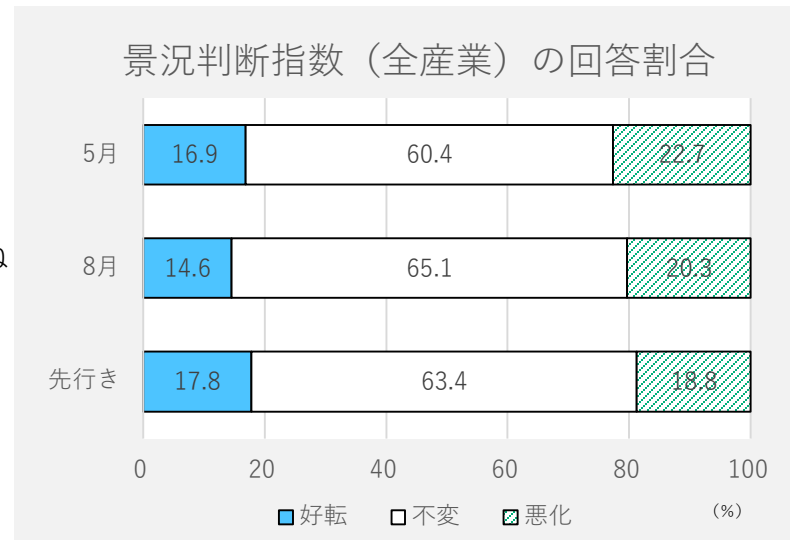
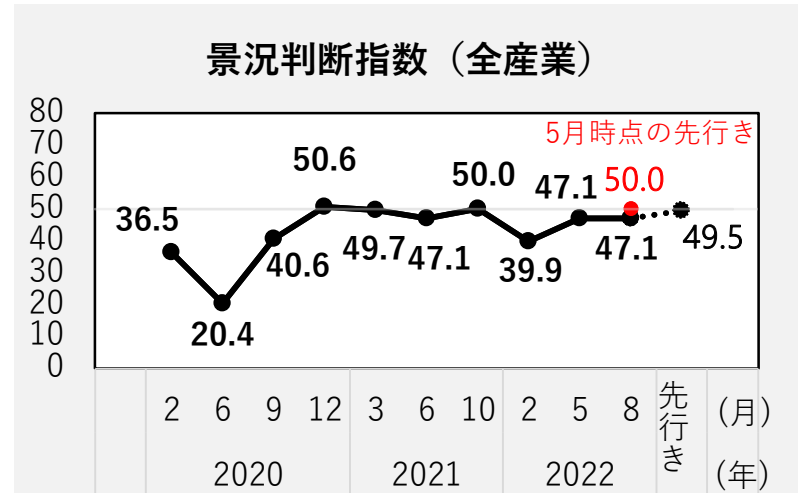
□ 先行き・「好転」17.8%、「不変」63.4%
「悪化」18.8%

注1) 景況判断指数の算出式

景況判断指数 = ((好転企業数 × 1 + 不変企業数 × 0.5 + 悪化企業数 × 0) ÷ 当該設問への回答企業数) × 100

指数が50を上回っていれば調査対象企業群の景況判断が概ね1~3か月前と比べて好転したことを表し、50を下回っていれば景況判断が概ね1~3か月前と比べて悪化したことを表す。50が中立となる。指数の範囲0.0 ≤ 景況判断指数 ≤ 100.0

注2) 景況判断は、「今月（概ね1~3か月前と比べて）」につき3つの選択肢 = 「1.好転」「2.不変」「3.悪化」から選択。「先行き（向こう3か月程度の見通し）」についても同様。



<2022年8月の景況感>

輸送用機器で「悪化」超幅が縮小する一方、飲食・宿泊は「好転」超幅が縮小

業種名	5月	8月 [5月時点の先行き]	(8月－5月)	先行き	回答数(8月)
全産業	47.1	47.1 [50.0]	±0.0	49.5	(2,532)
製造業	43.6	46.0 [49.7]	+2.4	50.5	(1,140)
非製造業	50.0	48.1 [50.3]	-1.9	48.7	(1,392)
食料品	51.4	46.2 [53.6]	-5.2	51.1	(132)
化学	44.1	42.8 [50.7]	-1.3	45.6	(90)
鉄・非鉄	47.2	46.9 [40.1]	-0.3	49.4	(80)
印刷業	50.0	42.6 [52.5]	-7.4	49.1	(54)
金属製品	40.2	45.5 [47.6]	+5.3	55.3	(188)
はん用、生産用、業務用機械	45.7	49.1 [56.3]	+3.4	49.7	(163)
電気機器	43.4	44.5 [47.5]	+1.1	49.4	(82)
輸送用機器	32.9	47.7 [50.0]	+14.8	52.7	(129)
その他製造業	43.7	45.3 [47.7]	+1.6	48.4	(222)
建設業	40.8	46.6 [47.7]	+5.8	53.4	(73)
卸売業	49.2	46.6 [47.5]	-2.6	46.4	(400)
小売業	44.1	46.4 [46.6]	+2.3	42.1	(222)
運輸業	46.1	46.1 [47.6]	±0.0	50.8	(397)
飲食・宿泊	79.2	61.9 [68.5]	-17.3	54.4	(113)
情報通信業	50.0	47.7 [52.4]	-2.3	50.0	(43)
その他非製造業	54.9	50.0 [57.5]	-4.9	52.1	(144)

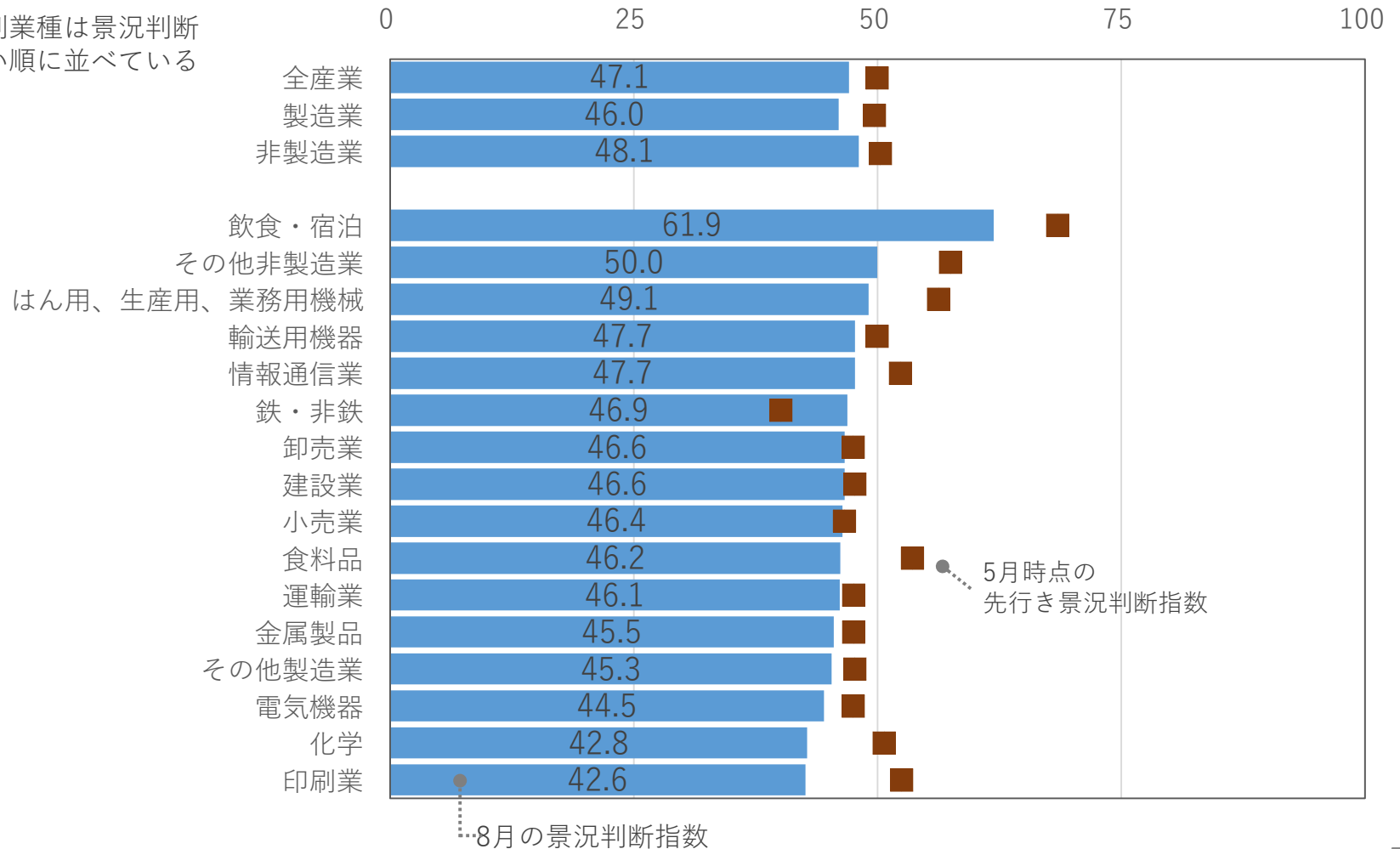
(注) その他製造業は紙・パルプ、繊維、窯業・土石、木材・木製品を含む。その他非製造業は不動産・物品賃貸業、サービス業を含む。

<2022年8月の景況感（5月時点の先行きとの比較）>

鉄・非鉄を除くすべての業種で、5月時点の先行き景況判断指数に達せず

■5月時点の先行き景況判断指数との比較

（注）個別業種は景況判断指数が高い順に並べている

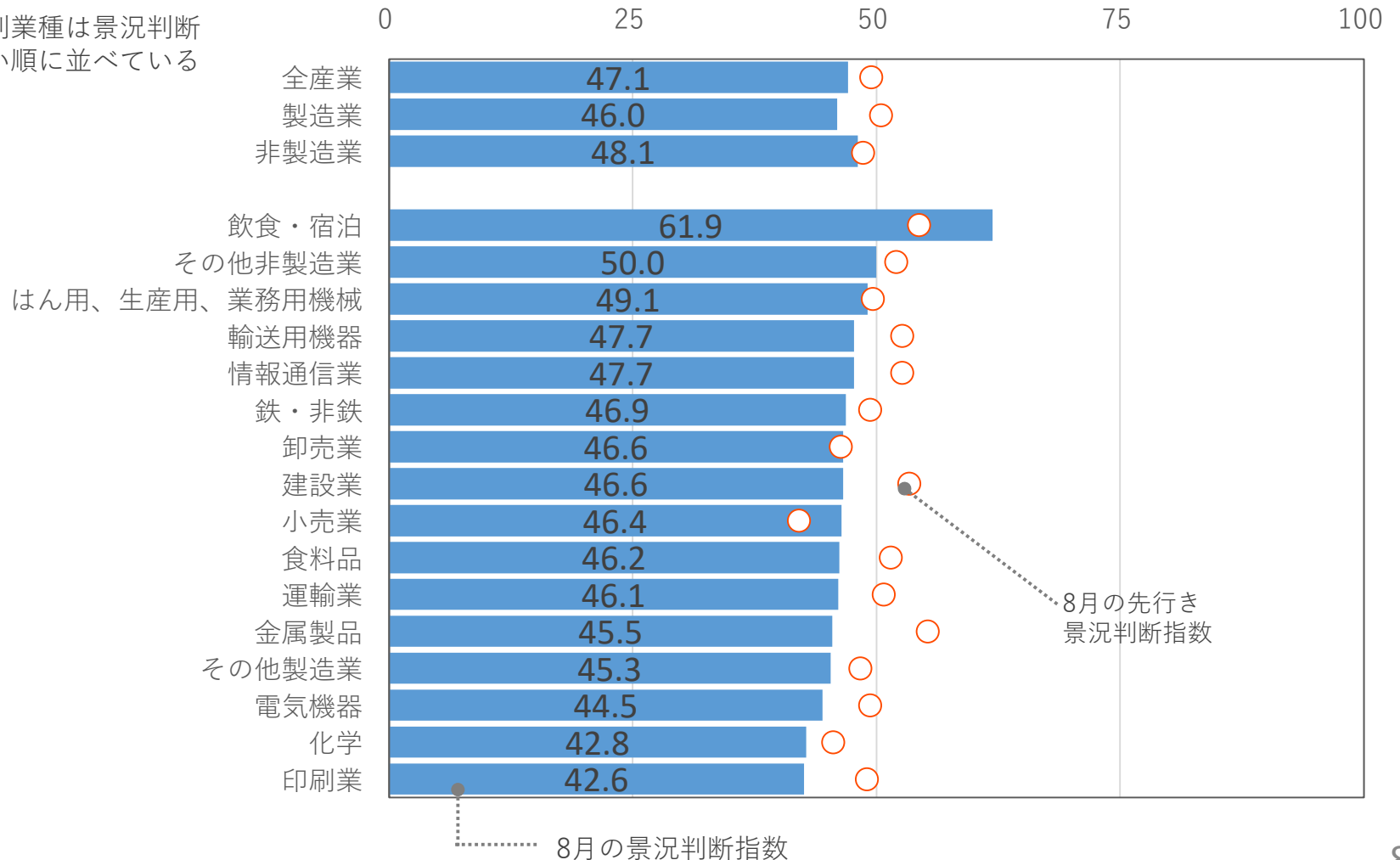


< 2022年8月の景況感（8月の先行きとの比較） >

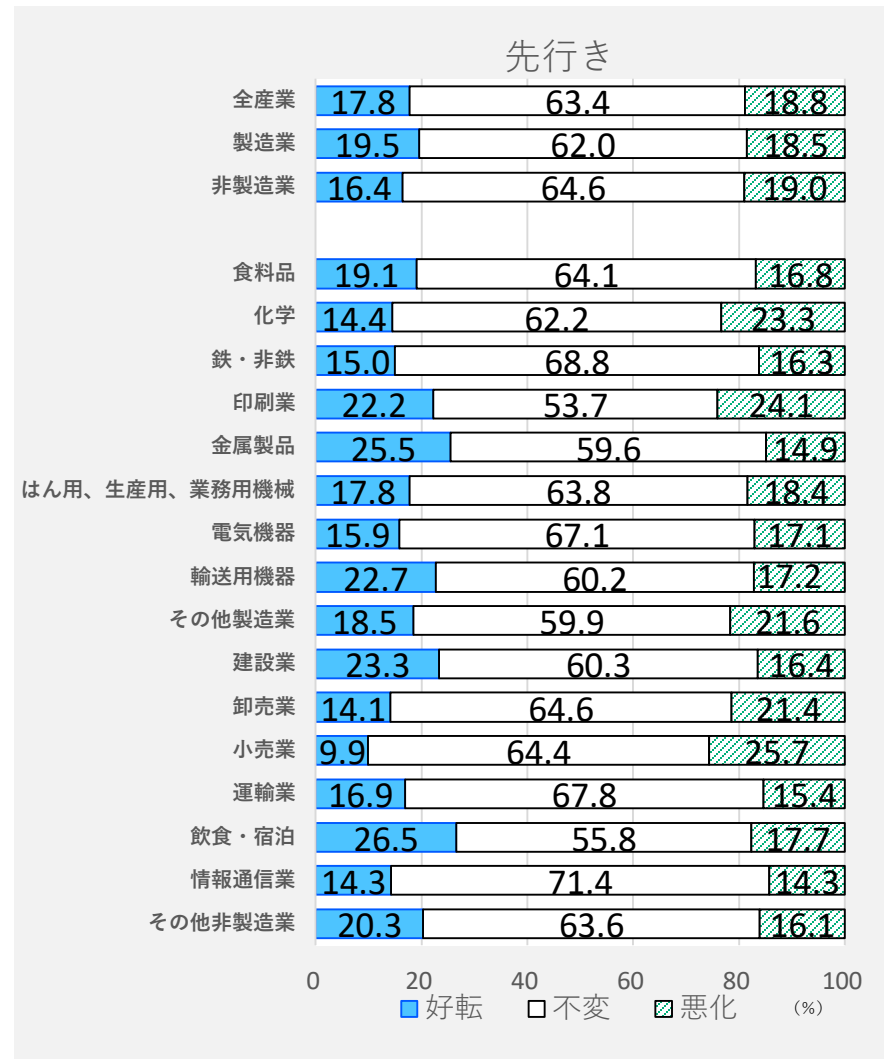
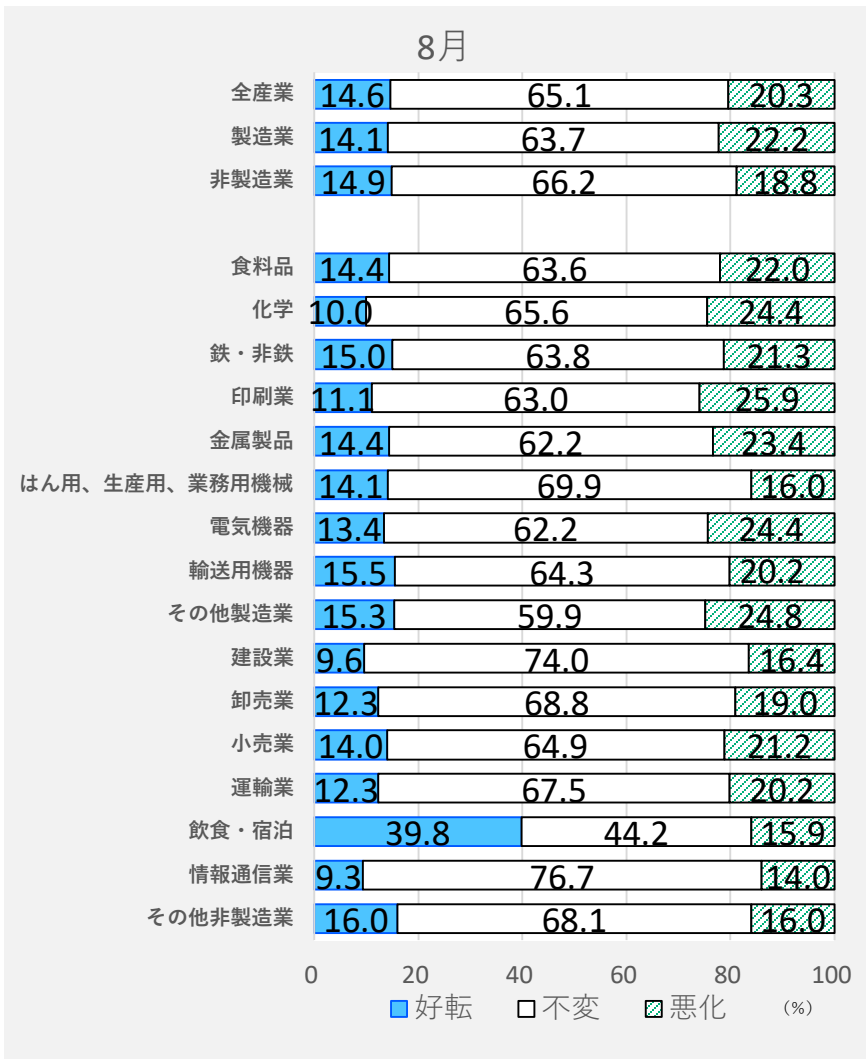
多くの業種で先行き改善を見込むが、飲食・宿泊や小売業等は、指数が低下する見通し

■ 8月の先行き景況判断指数との比較

(注) 個別業種は景況判断指数が高い順に並べている



<2022年8月の景況感> 業種別の回答構成比



<2022年8月の景況感> 地域別の景況感

地域名	5月	8月 [5月時点の先行き]	(8月－5月)	先行き	回答数(8月)	構成比 (%)	
						製造業	非製造業
全国	47.1	47.1 [50.0]	±0.0	49.5	(2,532)	45.1	54.9
北海道	50.0	57.5 [51.0]	+7.5	52.5	(60)	28.3	71.7
東北	46.8	45.8 [49.0]	-1.0	47.9	(192)	31.8	68.2
関東	47.4	47.6 [49.8]	+0.2	49.6	(756)	46.5	53.5
甲信越	49.6	46.2 [53.8]	-3.4	48.1	(159)	54.0	46.0
東海	43.9	46.4 [49.1]	+2.5	51.1	(280)	56.4	43.6
北陸	47.7	48.9 [50.0]	+1.2	50.5	(94)	47.4	52.6
近畿	46.8	45.6 [50.2]	-1.2	51.1	(418)	47.7	52.3
中国	43.6	47.3 [47.1]	+3.7	47.0	(203)	41.0	59.0
四国	46.2	47.4 [47.7]	+1.2	45.3	(96)	40.6	59.4
九州・沖縄	51.2	47.1 [53.2]	-4.1	49.3	(274)	37.1	62.9

(注) 全国ベースで調査対象企業の抽出を行っているため、地域ごとの業種構成は考慮していない。
そのため、各地域間の比較や、全国と各地域を比較する際は注意を要する。

2. 業況判断

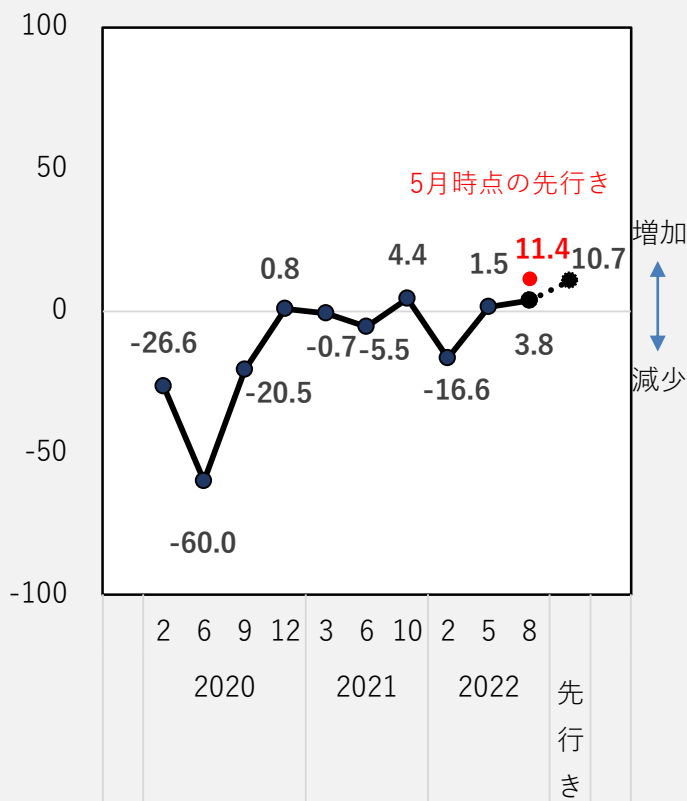
～【雇用状況】「不足」超幅の拡大が続き、
コロナ影響が深刻化する直前の2020年2月を上回った



<2022年8月の業況判断>

【売上】 前回に続き飲食・宿泊がけん引し、全産業でも「増加」超が続く

売上DI (全産業)



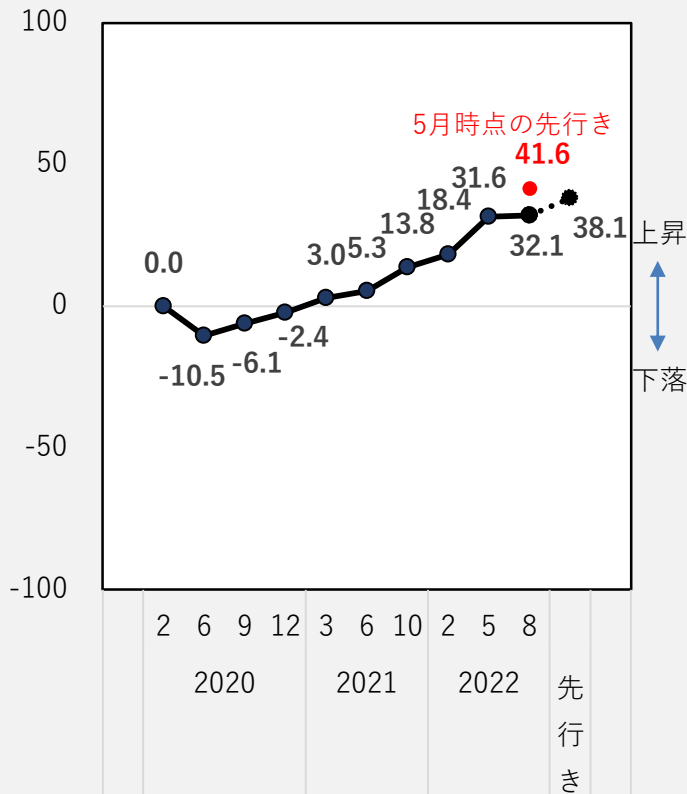
	22年5月	22年8月 [5月時点の先行き]	先行き
全産業	1.5	3.8 [11.4]	10.6
製造業	▲ 5.2	2.0 [10.9]	12.4
非製造業	7.1	5.2 [11.8]	9.2
食料品	23.6	24.2 [34.5]	18.3
化学	▲ 4.4	9.9 [14.7]	3.3
鉄・非鉄	11.3	▲ 6.3 [1.4]	17.5
印刷業	7.7	5.6 [12.5]	14.8
金属製品	▲ 10.9	0.5 [6.8]	22.9
はん用、生産用、業務用機械	▲ 7.8	▲ 4.3 [10.2]	1.8
電気機器	▲ 11.5	▲ 4.9 [3.4]	0.0
輸送用機器	▲ 42.6	▲ 3.1 [▲0.9]	19.7
その他製造業	▲ 1.1	▲ 0.9 [12.1]	9.5
建設業	▲ 18.2	▲ 4.1 [0.0]	6.8
卸売業	8.8	5.8 [8.8]	9.3
小売業	▲ 3.4	0.0 [4.6]	▲ 2.7
運輸業	2.2	2.3 [8.2]	14.4
飲食・宿泊	62.9	37.5 [51.7]	16.1
情報通信業	▲ 11.6	▲ 2.3 [0.0]	7.1
その他非製造業	10.6	1.4 [21.2]	9.0

(DIの定義は資料末尾に記載)

<2022年8月の業況判断>

【販売価格】「上昇」超幅の拡大が続いているが、拡大テンポは鈍化

販売価格DI（全産業）



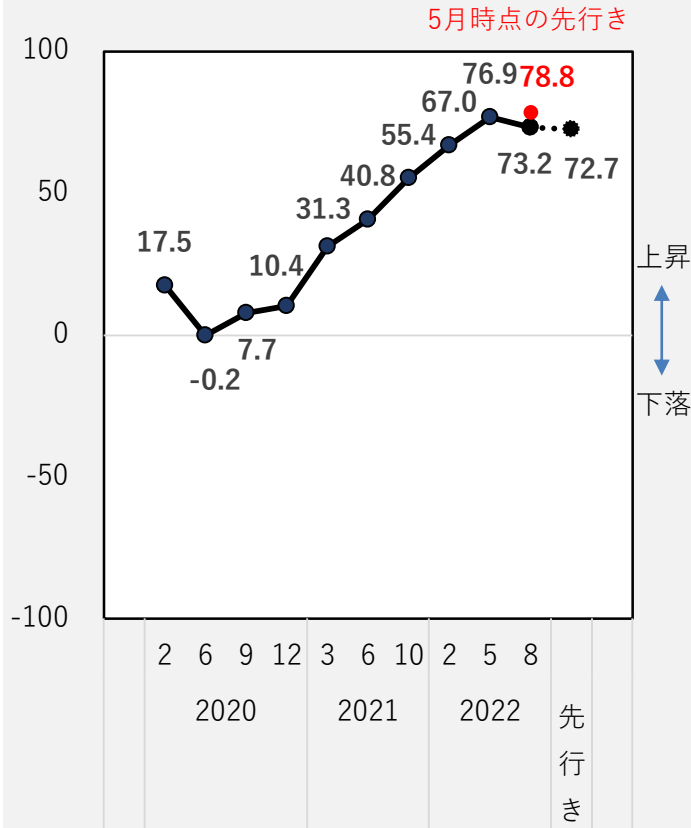
	22年5月	22年8月 [5月時点の先行き]	先行き
全産業	31.6	32.1 [41.6]	38.1
製造業	35.1	34.9 [47.5]	43.4
非製造業	28.6	29.8 [36.6]	33.7
食料品	42.2	44.3 [51.8]	59.8
化学	35.3	39.6 [49.3]	41.8
鉄・非鉄	52.1	41.3 [56.3]	45.0
印刷業	35.9	35.2 [47.5]	46.3
金属製品	36.5	41.2 [53.4]	43.9
はん用、生産用、業務用機械	31.5	26.4 [38.6]	31.9
電気機器	16.7	14.8 [23.7]	32.1
輸送用機器	19.4	18.1 [38.0]	34.1
その他製造業	41.1	43.0 [55.7]	50.7
建設業	10.6	12.9 [22.7]	14.3
卸売業	51.9	47.8 [58.3]	49.1
小売業	39.7	42.3 [49.1]	49.5
運輸業	10.9	10.6 [16.3]	15.4
飲食・宿泊	31.5	40.5 [45.5]	34.8
情報通信業	7.0	9.3 [14.0]	28.6
その他非製造業	14.3	18.2 [25.0]	25.7

(DIの定義は資料末尾に記載)

<2022年8月の業況判断>

【仕入価格】「上昇」超幅は依然大きいものの、前回対比では縮小に転じた

仕入価格DI（全産業）



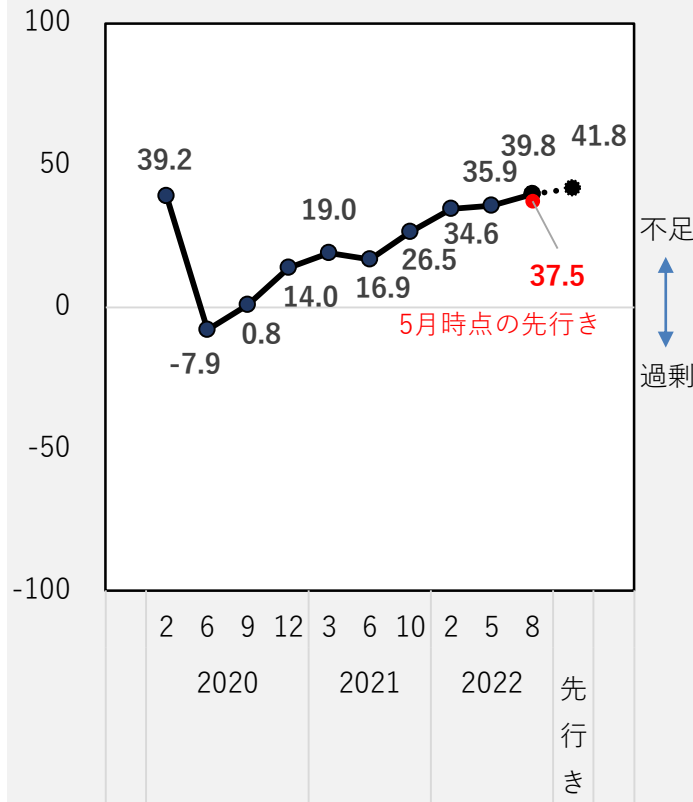
	22年5月	22年8月 [5月時点の先行き]	先行き
全産業	76.9	73.2 [78.8]	72.7
製造業	85.6	78.8 [86.1]	77.6
非製造業	69.6	68.6 [72.7]	68.7
食料品	85.5	86.4 [89.0]	90.9
化学	85.3	85.7 [85.3]	74.7
鉄・非鉄	88.7	56.3 [74.6]	55.0
印刷業	87.2	79.6 [90.0]	79.6
金属製品	87.1	83.5 [89.9]	80.3
はん用、生産用、業務用機械	87.5	82.1 [88.2]	79.8
電気機器	90.0	75.3 [93.2]	75.3
輸送用機器	82.2	77.2 [82.4]	80.3
その他製造業	82.3	75.1 [83.4]	74.1
建設業	77.3	81.9 [80.3]	75.0
卸売業	77.1	70.3 [75.4]	68.2
小売業	58.3	59.3 [63.6]	62.0
運輸業	73.5	69.8 [73.5]	68.7
飲食・宿泊	91.0	87.5 [93.3]	88.4
情報通信業	27.9	46.5 [51.2]	64.3
その他非製造業	51.8	60.1 [64.0]	62.9

(DIの定義は資料末尾に記載)

<2022年8月の業況判断>

【雇用状況】「不足」超幅の拡大が続き、
コロナ影響が深刻化する直前の2020年2月を上回った

雇用状況DI（全産業）



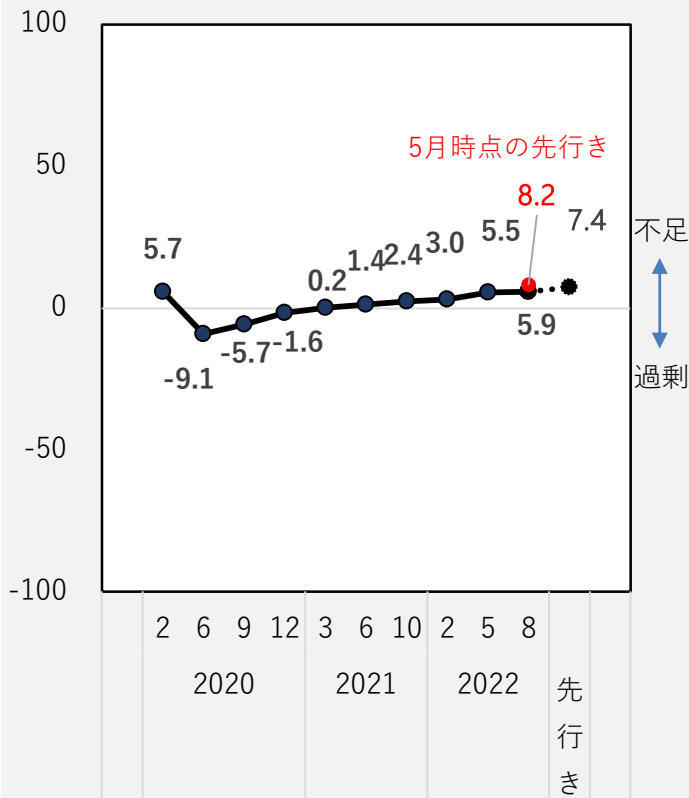
	22年5月	22年8月 [5月時点の先行き]	先行き
全産業	35.9	39.8 [37.5]	41.8
製造業	29.1	32.6 [31.4]	36.1
非製造業	41.5	45.7 [42.5]	46.5
食料品	42.7	44.7 [46.4]	48.5
化学	47.1	34.1 [44.1]	35.2
鉄・非鉄	45.1	44.3 [38.0]	47.4
印刷業	15.4	27.8 [22.5]	24.1
金属製品	25.7	32.6 [26.4]	37.4
はん用、生産用、業務用機械	35.7	33.7 [34.4]	35.6
電気機器	26.7	24.4 [33.9]	28.0
輸送用機器	▲ 4.6	18.0 [7.4]	28.3
その他製造業	29.7	32.6 [32.6]	34.8
建設業	50.0	49.3 [53.0]	52.1
卸売業	28.6	29.0 [28.3]	27.6
小売業	31.8	48.2 [33.9]	51.1
運輸業	54.3	56.4 [54.6]	59.0
飲食・宿泊	53.9	64.3 [59.1]	65.2
情報通信業	25.6	41.9 [34.9]	38.1
その他非製造業	46.0	44.4 [43.4]	43.1

(DIの定義は資料末尾に記載)

<2022年8月の業況判断>

【生産・営業用設備】「不足」超幅の拡大が続き、
コロナ影響が深刻化する直前の2020年2月を上回った

生産・営業用設備DI
(全産業)



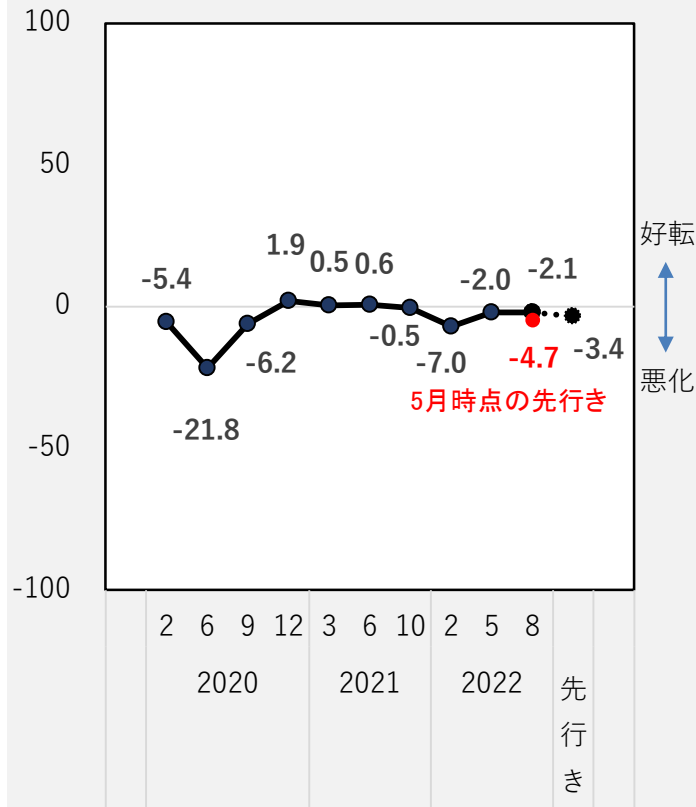
	22年5月	22年8月 [5月時点の先行き]	先行き
全産業	5.5	5.9 [8.2]	7.5
製造業	5.3	5.9 [8.3]	8.4
非製造業	5.7	5.9 [8.1]	6.7
食料品	13.6	10.6 [16.4]	13.0
化学	11.8	9.9 [10.3]	11.2
鉄・非鉄	9.9	13.9 [9.9]	13.9
印刷業	0.0	3.7 [5.0]	1.9
金属製品	2.0	2.7 [4.1]	2.1
はん用、生産用、業務用機械	10.2	9.2 [12.6]	11.7
電気機器	8.3	▲ 4.9 [16.9]	7.3
輸送用機器	▲ 19.4	▲ 2.3 [▲ 11.1]	9.4
その他製造業	10.4	8.1 [12.1]	6.8
建設業	6.1	▲ 1.4 [6.1]	1.4
卸売業	3.7	3.0 [5.1]	4.0
小売業	4.1	6.5 [4.1]	3.2
運輸業	11.1	12.3 [15.1]	14.7
飲食・宿泊	▲ 5.6	1.8 [0.0]	0.0
情報通信業	0.0	4.7 [7.0]	4.8
その他非製造業	9.9	2.8 [10.8]	6.3

(DIの定義は資料末尾に記載)

<2022年8月の業況判断>

【資金繰り】概ね前回並みの小幅「悪化」超

資金繰りDI（全産業）



	22年5月	22年8月 [5月時点の先行き]	先行き
全産業	▲ 2.0	▲ 2.1 [▲4.7]	▲ 3.4
製造業	▲ 4.4	▲ 3.3 [▲6.2]	▲ 5.1
非製造業	▲ 0.1	▲ 1.2 [▲3.5]	▲ 1.9
食料品	▲ 1.8	▲ 1.5 [▲7.3]	▲ 5.3
化学	▲ 5.9	▲ 1.1 [▲8.8]	▲ 3.3
鉄・非鉄	▲ 4.3	▲ 3.8 [▲5.7]	▲ 8.9
印刷業	12.8	▲ 9.3 [5.0]	▲ 13.0
金属製品	▲ 4.7	▲ 3.2 [▲8.1]	▲ 3.7
はん用、生産用、業務用機械	▲ 1.6	▲ 4.3 [▲3.2]	▲ 3.7
電気機器	▲ 10.0	▲ 6.1 [▲15.3]	▲ 4.9
輸送用機器	▲ 21.3	▲ 4.7 [▲12.0]	▲ 7.9
その他製造業	1.1	▲ 0.9 [▲1.1]	▲ 3.2
建設業	▲ 1.5	▲ 1.4 [▲7.6]	▲ 4.2
卸売業	0.7	▲ 1.3 [▲1.0]	▲ 1.0
小売業	▲ 0.6	3.2 [▲6.9]	3.1
運輸業	▲ 5.4	▲ 3.0 [▲5.1]	▲ 3.8
飲食・宿泊	9.0	▲ 6.3 [▲1.1]	▲ 10.7
情報通信業	4.7	0.0 [2.4]	0.0
その他非製造業	5.3	0.7 [▲1.8]	0.0

(DIの定義は資料末尾に記載)

(参考) 業況判断DIの定義

業況判断	<p>各項目の「今月」および「先行き」について、下記3つの選択肢（1.~3.）の中から、調査対象企業自身の業況についての判断（業況感）に該当するものを選択する</p>
DIの算出方法 (Diffusion Index の略)	<p>①売上…「1.増加」「2.不変」「3.減少」 ②販売価格…「1.上昇」「2.不変」「3.下落」 ③仕入価格…「1.上昇」「2.不変」「3.下落」 ④雇用状況…「1.不足」「2.適正」「3.過剰」 ⑤生産・営業用設備…「1.不足」「2.適正」「3.過剰」 ⑥資金繰り…「1.好転」「2.不変」「3.悪化」</p> <p>業況判断DI = 「1.」 - 「3.」の企業割合（%） DIの範囲▲100.0 ≦ 業況判断DI ≦ 100.0</p> <p>②販売価格、③仕入価格、⑥資金繰りは「今月」はおおむね1~3か月前と比べて、「先行き」は今月と比べた向こう3か月程度の見通しについて、それぞれ選択肢から選んで回答。</p> <p>④雇用状況、⑤生産・営業用設備は、調査対象企業が「適正」と考えている水準を基準として、「今月」と「先行き」の状況を、それぞれ選択肢から選んで回答。</p>



人を思う。未来を思う。

商工中金